
豊見城市 子供調査
調査結果報告書（概要版）

平成30年3月

豊見城市 福祉部社会福祉課

目次

I	調査概要	1
	1. 調査目的	1
	2. 調査対象	1
	3. 調査方法	1
	4. 調査期間	1
	5. 回収状況	1
	6. 調査実施機関	1
	7. 注意事項	1
II	回答者概要	2
	1. 子供への調査	2
	2. 保護者への調査	2
III	調査結果概要（抜粋）	3
	1. 食事	3
	2. 家計と子供への支出	5
	3. 子供の進学に関する意識	6
	4. 困窮経験	7
	5. 子供の放課後の居場所	9

I 調査概要

1. 調査目的

本調査は、豊見城市内における子供の貧困対策事業を更に効果的に推進するため、沖縄県が平成28年3月に公表した沖縄子ども調査と同様の内容で調査を行い、市内における子供の貧困の現状把握や、貧困状態が子供の生活や成長に与える影響について調査・分析するとともに、沖縄子ども調査の結果と比較することを目的としています。

2. 調査対象

(1) 子供への調査

- ①豊見城市内全小学校（8校）の5年生
- ②豊見城市内全中学校（3校）の2年生

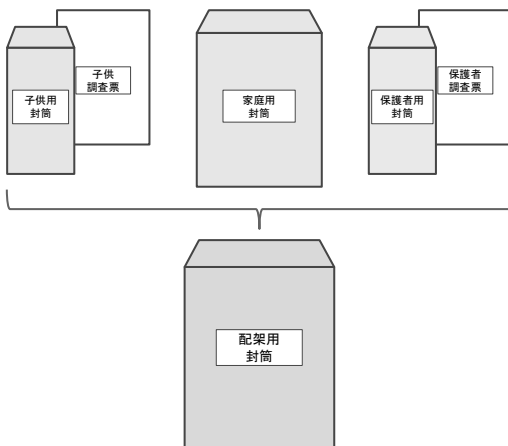
(2) 保護者への調査

- ①豊見城市内全小学校（8校）の1年生の保護者
- ②豊見城市内全小学校（8校）の5年生の保護者
- ③豊見城市内全中学校（3校）の2年生の保護者

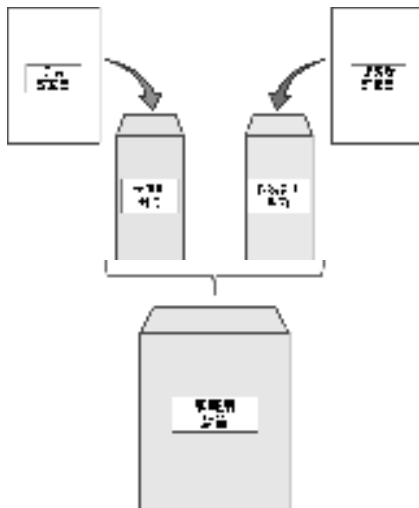
3. 調査方法

調査票は、子供票、保護者票を同一封筒に封入し、各学校を通じて各学級内で児童・生徒に配布しました。配布した調査票を子供が家庭に持ち帰り、子供票は児童・生徒に、保護者票は主に保護者に記入していただきました。回答していただいた調査票は、子供票、保護者票それぞれ専用の封筒に封入・密封し、小学5年生・中学2年生はそれぞれ密封した封筒をさらに家庭用封筒に封入・密封の上、学校に提出していただきました。なお、いずれも無記名、自記式としています。

【配架時】



【回収時】



4. 調査期間

平成29年10月24日～平成29年11月2日

5. 回収状況

		子供票	保護者票
小学1年生	調査対象数	/	901
	有効回答数		603
	有効回答率		66.9%
小学5年生	調査対象数	806	806
	有効回答数	516	515
	有効回答率	64.0%	63.9%
中学2年生	調査対象数	718	718
	有効回答数	492	494
	有効回答率	68.5%	68.8%
合計	調査対象数	1,524	2,425
	有効回答数	1,008	1,612
	有効回答率	66.1%	66.5%

6. 調査実施機関

豊見城市 福祉部社会福祉課

（調査設計、調査票の配架・回収、回答結果の集計、分析等については、株式会社東京商工リサーチ沖縄支店に委託しました。）

7. 注意事項

- 集計は、調査票毎の有効回答を対象としています。
- 各設問の全体集計およびクロス集計は、無回答を含めて集計しています。
- 図表中の構成比率は、小数点第2位以下を四捨五入しており、合計が100%とならないことがあります。
- 回答が2つ以上ありうる場合（複数回答可の設問）、合計が100%を超えることがあります。
- 本調査は、可能な限り「沖縄子ども調査 調査結果概要版平成28年3月25日（以降、「沖縄県」と表記）」の結果内容と比較しています。

Ⅱ 回答者概要

1. 子供への調査

	性別			合計		世帯累計				合計
	男子	女子	不明+無回答			二親世帯	母子世帯	父子世帯	その他+不明	
小学5年生	207	282	27	516	小学5年生	432	50	4	30	516
	40.1%	54.7%	5.2%	100.0%		83.7%	9.7%	0.8%	5.8%	100.0%
中学2年生	222	246	24	492	中学2年生	372	79	12	29	492
	45.1%	50.0%	4.9%	100.0%		75.6%	16.1%	2.4%	5.9%	100.0%
合計	429	528	51	1,008	合計	804	129	16	59	1,008
	42.6%	52.4%	5.1%	100.0%		79.8%	12.8%	1.6%	5.9%	100.0%

	経済状況			合計
	非貧困	貧困	不明	
小学5年生	355	83	78	516
	68.8%	16.1%	15.1%	100.0%
中学2年生	317	109	66	492
	64.4%	22.2%	13.4%	100.0%
合計	672	192	144	1,008
	66.7%	19.0%	14.3%	100.0%

2. 保護者への調査

	子供との続柄						合計
	母親	父親	祖母	祖父	その他	無回答	
小学1年生	513	64	1	0	0	25	603
	85.1%	10.6%	0.2%	0.0%	0.0%	4.1%	100.0%
小学5年生	430	62	4	1	1	17	515
	83.5%	12.0%	0.8%	0.2%	0.2%	3.3%	100.0%
中学2年生	398	70	4	0	0	22	494
	80.6%	14.2%	0.8%	0.0%	0.0%	4.5%	100.0%
合計	1,341	196	9	1	1	64	1,612
	83.2%	12.2%	0.6%	0.1%	0.1%	4.0%	100.0%

	世帯累計				合計		経済状況			合計
	二親世帯	母子世帯	父子世帯	その他+不明			非貧困	貧困	不明	
小学1年生	518	54	9	22	603	小学1年生	434	111	58	603
	85.9%	9.0%	1.5%	3.6%	100.0%		72.0%	18.4%	9.6%	100.0%
小学5年生	432	50	4	29	515	小学5年生	355	83	77	515
	83.9%	9.7%	0.8%	5.6%	100.0%		68.9%	16.1%	15.0%	100.0%
中学2年生	375	80	12	27	494	中学2年生	320	110	64	494
	75.9%	16.2%	2.4%	5.5%	100.0%		64.8%	22.3%	13.0%	100.0%
合計	1,325	184	25	78	1,612	合計	1,109	304	199	1,612
	82.2%	11.4%	1.6%	4.8%	100.0%		68.8%	18.9%	12.3%	100.0%

【経済状況の算出】

貧困、非貧困を分類するための計算は、沖縄県子ども調査と同様、以下の方法に従って行いました。

①可処分所得（いわゆる「手取り額」）を基に、世帯人数で調整した額（等価可処分所得）を算出します。

$$\text{等価可処分所得} = \frac{\text{可処分所得}}{\sqrt{\text{世帯員数}}}$$

②等価可処分所得が『122万円以上』の世帯を<非貧困>、『122万円未満』の世帯を<貧困>と分類します（122万円は、厚生労働省「平成25年国民生活基礎調査」において推計された相対的貧困基準）。

Ⅲ 調査結果概要（抜粋）

1. 食事

○食事を誰と食べるか／平日【小学5年生】

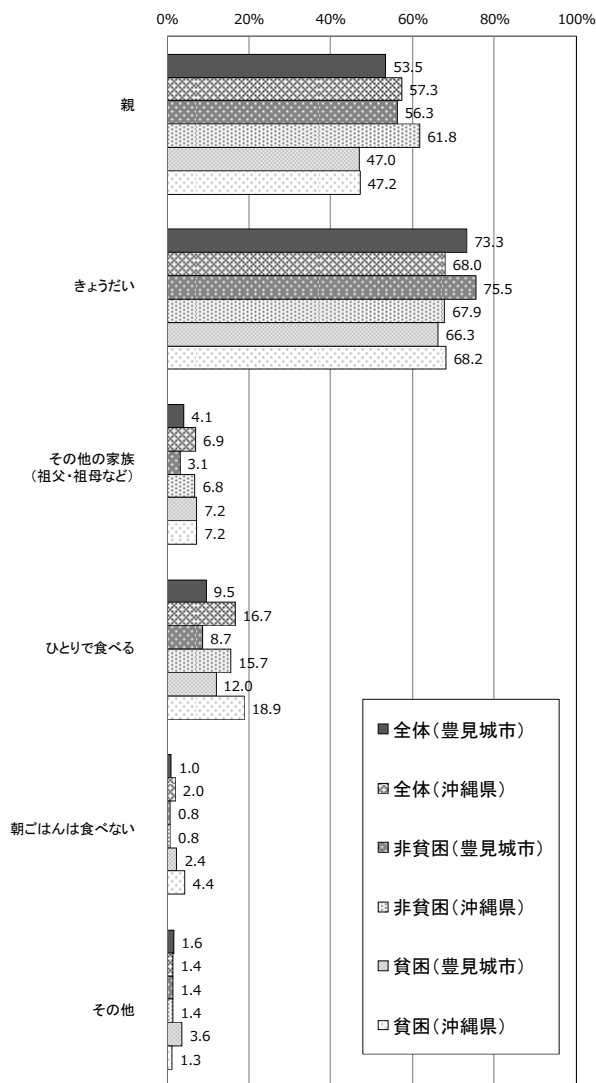
小学5年生の子供たちに、平日に食事を誰と食べるかについて質問した結果です。

「親」は平日朝で53.5%、平日夜で79.1%となっています。一方、「ひとりで食べる」は平日朝で9.5%、平日夜で2.9%となっています。

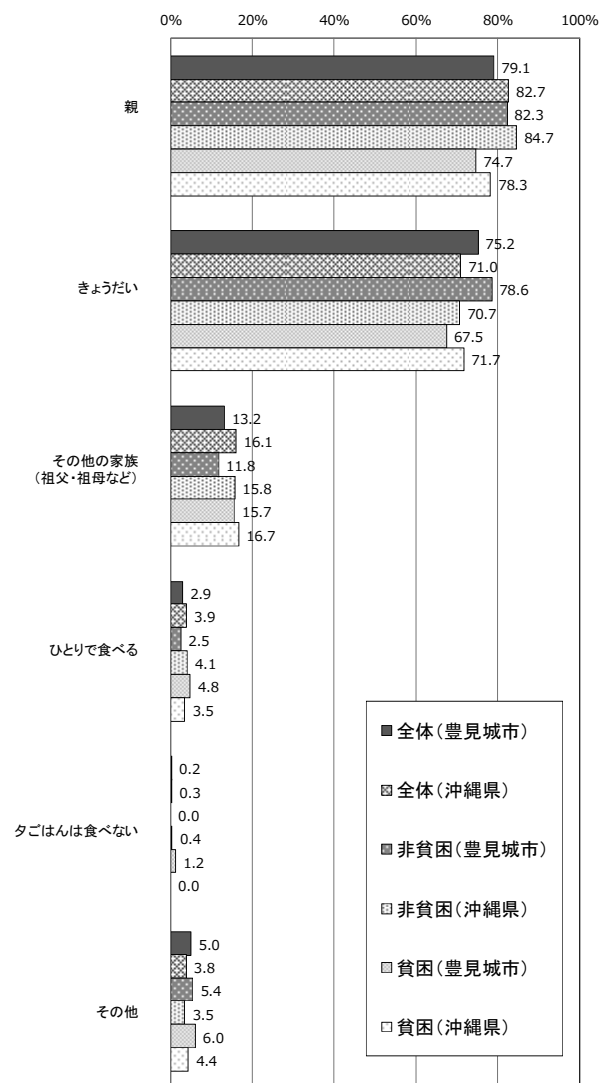
経済状況別にみると、「親」は<貧困>の方が平日朝で9.3ポイント、平日夜で7.6ポイントともに低くなっています。「ひとりで食べる」は<貧困>の方が平日朝で3.3ポイント、平日夜で2.3ポイントともに高くなっています。

沖縄県と比較すると、「親」は平日朝で3.8ポイント低く、平日夜でも3.6ポイント低くなっています。一方、「ひとりで食べる」は平日朝で7.2ポイント低くなっていますが、平日夜では大きな違いはみられません。

平日朝（複数回答）



平日夜（複数回答）



○食事を誰と食べるか／平日【中学2年生】

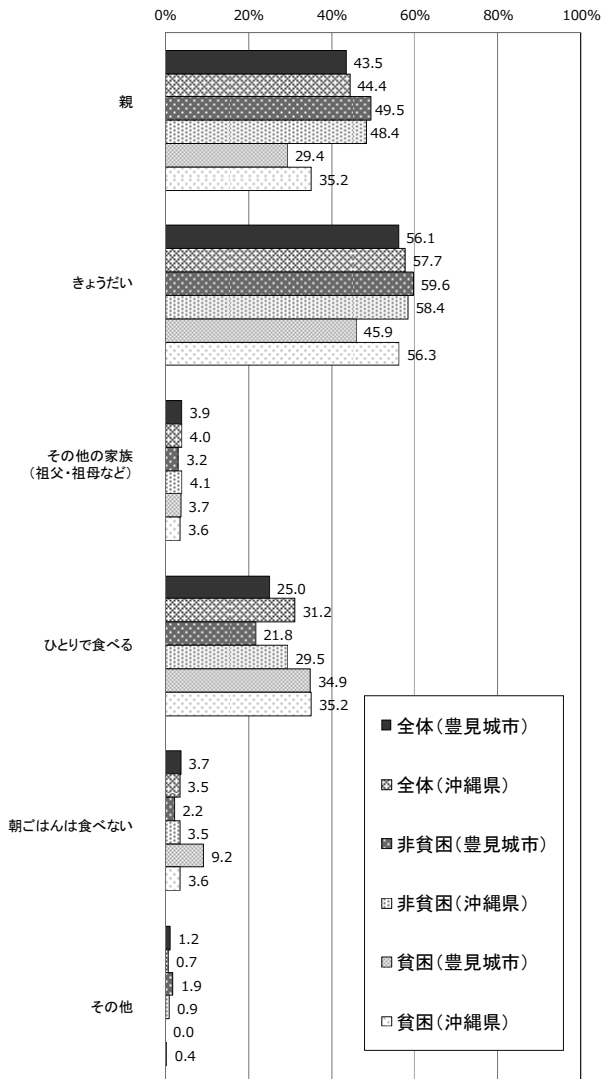
中学2年生の子供たちに、平日に食事を誰と食べるかについて質問した結果です。

「親」は平日朝で43.5%、平日夜で78.7%となっています。一方、「ひとりで食べる」は平日朝で25.0%、平日夜で8.1%となっています。

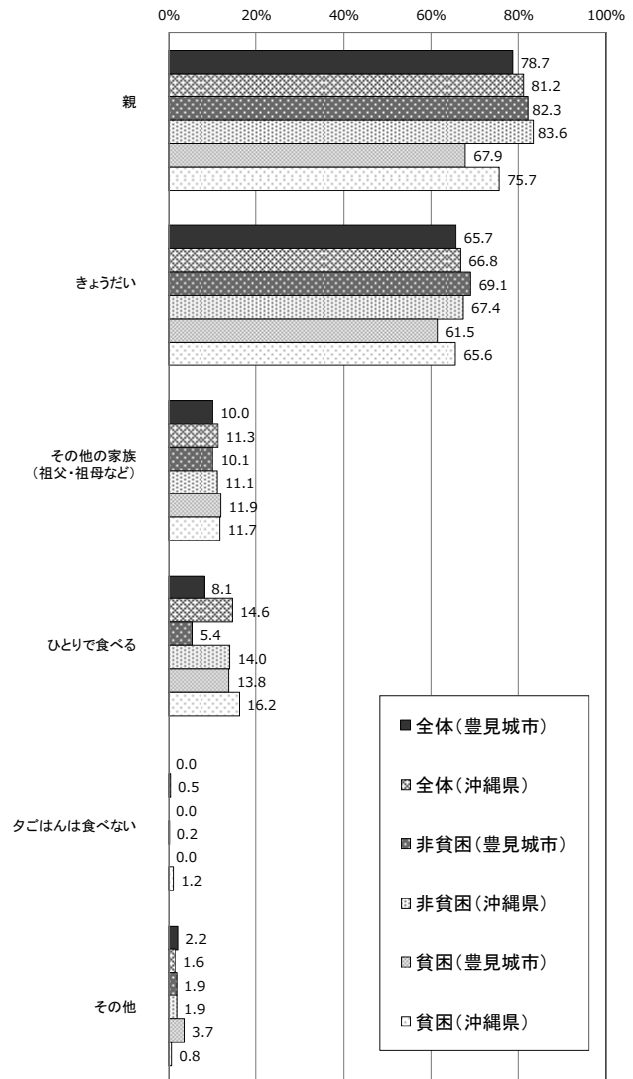
経済状況別にみると、「親」は<貧困>の方が平日朝で20.1ポイント、平日夜で14.4ポイントともに低くなっています。「ひとりで食べる」は<貧困>の方が平日朝で13.1ポイント、平日夜で8.4ポイントともに高くなっています。

沖縄県と比較すると、「親」は平日朝では大きな違いはみられませんが、平日夜では2.5ポイント低くなっています。一方、「ひとりで食べる」は平日朝で6.2ポイント、平日夜で6.5ポイントともに低くなっています。

平日朝（複数回答）



平日夜（複数回答）

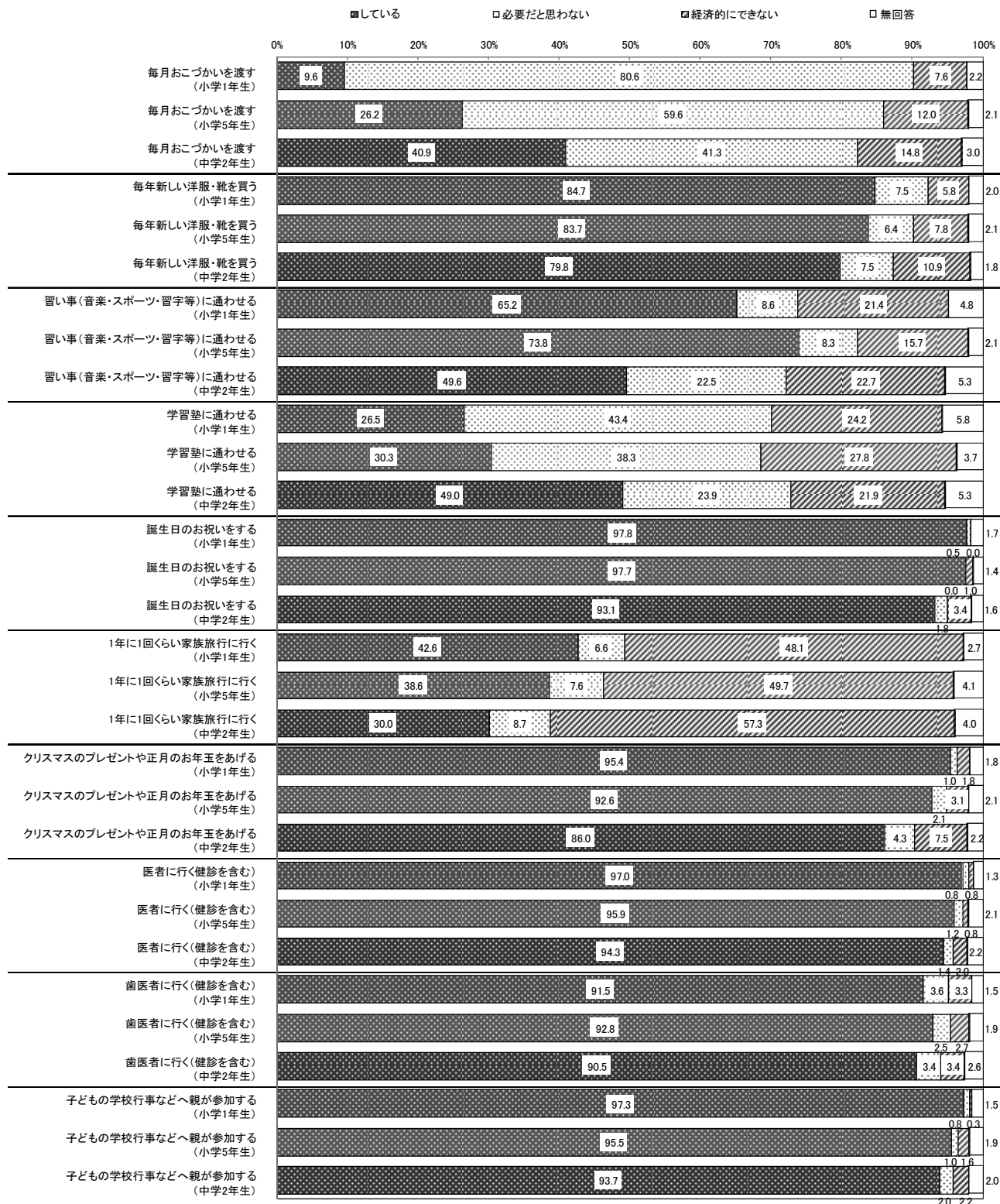


2. 家計と子供への支出

○子供への支出

小学1年生、小学5年生、中学2年生の保護者たちに、以下の10項目に関する子供への支出を行っているか質問した結果です。

「誕生日のお祝いをする」、「医者に行く（健診を含む）」、「歯医者に行く（健診を含む）」、および「子どもの学校行事などへ親が参加する」については、いずれの学年においても「している」が9割を超えています。一方、「1年に1回くらい家族旅行に行く」は、いずれの学年においても「経済的にできない」が4～5割台と最も高く、その割合は学年が上がるにつれて高くなっています。また、「学習塾に通わせる」が「経済的にできない」割合は、いずれの学年においても2割台となり、＜小学5年生＞で他の学年より高くなっていますが、「習い事（音楽・スポーツ・習字等）に通わせる」が「経済的にできない」割合は、＜小学5年生＞で他の学年より低くなっています。このほか、「毎月おこづかいを渡す」、および「毎年新しい洋服・靴を買う」が「経済的にできない」割合はいずれの学年においても2割以下ですが、学年が上がるにつれて高くなっています。

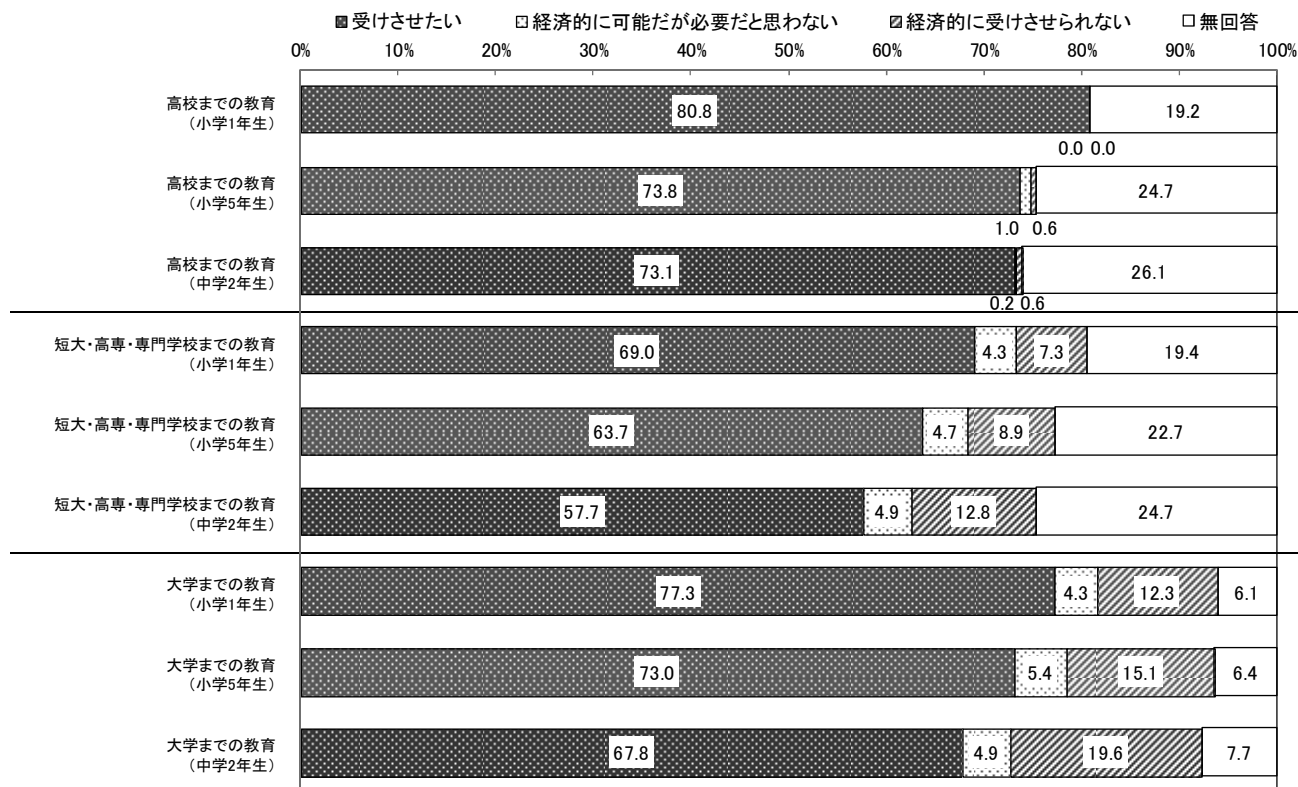


3. 子供の進学に関する意識

○どの段階までの教育を受けさせたいか

小学1年生、小学5年生、中学2年生の保護者たちに、子供にどの段階までの教育を受けさせたいか質問した結果です。

いずれの学年においても「高校までの教育」については「経済的に受けさせられない」という回答はほとんどみられませんでした。ただし、「短大・高等・専門学校までの教育」については、<小学1年生>で7.3%、<小学5年生>で8.9%、<中学2年生>で12.8%が「経済的に受けさせられない」としており、学年が上がるにつれて高くなっています。また、「大学までの教育」についても、<小学1年生>で12.3%、<小学5年生>で15.1%、<中学2年生>で19.6%が「経済的に受けさせられない」としており、学年が上がるにつれて高くなっています。



4. 困窮経験

○食料を買えなかった経験

小学1年生、小学5年生、中学2年生の保護者たちに、過去1年間に経済的な理由で家族が必要とする食料が買えないことがあったかを質問した結果です。

【小学1年生】

『あった』（「よくあった」＋「ときどきあった」＋「まれにあった」）とする割合は22.0%となっています。経済状況別にみると、『あった』は＜非貧困＞で16.2%、＜貧困＞で44.1%となり、＜貧困＞の方が27.9ポイント高くなっています。

沖縄県と比較すると、『あった』は全体で2.5ポイント低く、＜貧困＞でも2.5ポイント低くなっていますが、＜非貧困＞では1.1ポイント高くなっています。

【小学5年生】

『あった』（「よくあった」＋「ときどきあった」＋「まれにあった」）とする割合は21.8%となっています。経済状況別にみると、『あった』は＜非貧困＞で14.1%、＜貧困＞で55.4%となり、＜貧困＞の方が41.3ポイント高くなっています。

沖縄県と比較すると、『あった』は全体で6.9ポイント低く、＜非貧困＞でも5.3ポイント低くなっていますが、＜貧困＞では6.1ポイント高くなっています。

【中学2年生】

『あった』（「よくあった」＋「ときどきあった」＋「まれにあった」）とする割合は27.9%となっています。経済状況別にみると、『あった』は＜非貧困＞で17.5%、＜貧困＞で59.2%となり、＜貧困＞の方が41.7ポイント高くなっています。

沖縄県と比較すると、『あった』は全体で1.5ポイント低く、＜非貧困＞でも3.7ポイント低くなっていますが、＜貧困＞では9.5ポイント高くなっています。

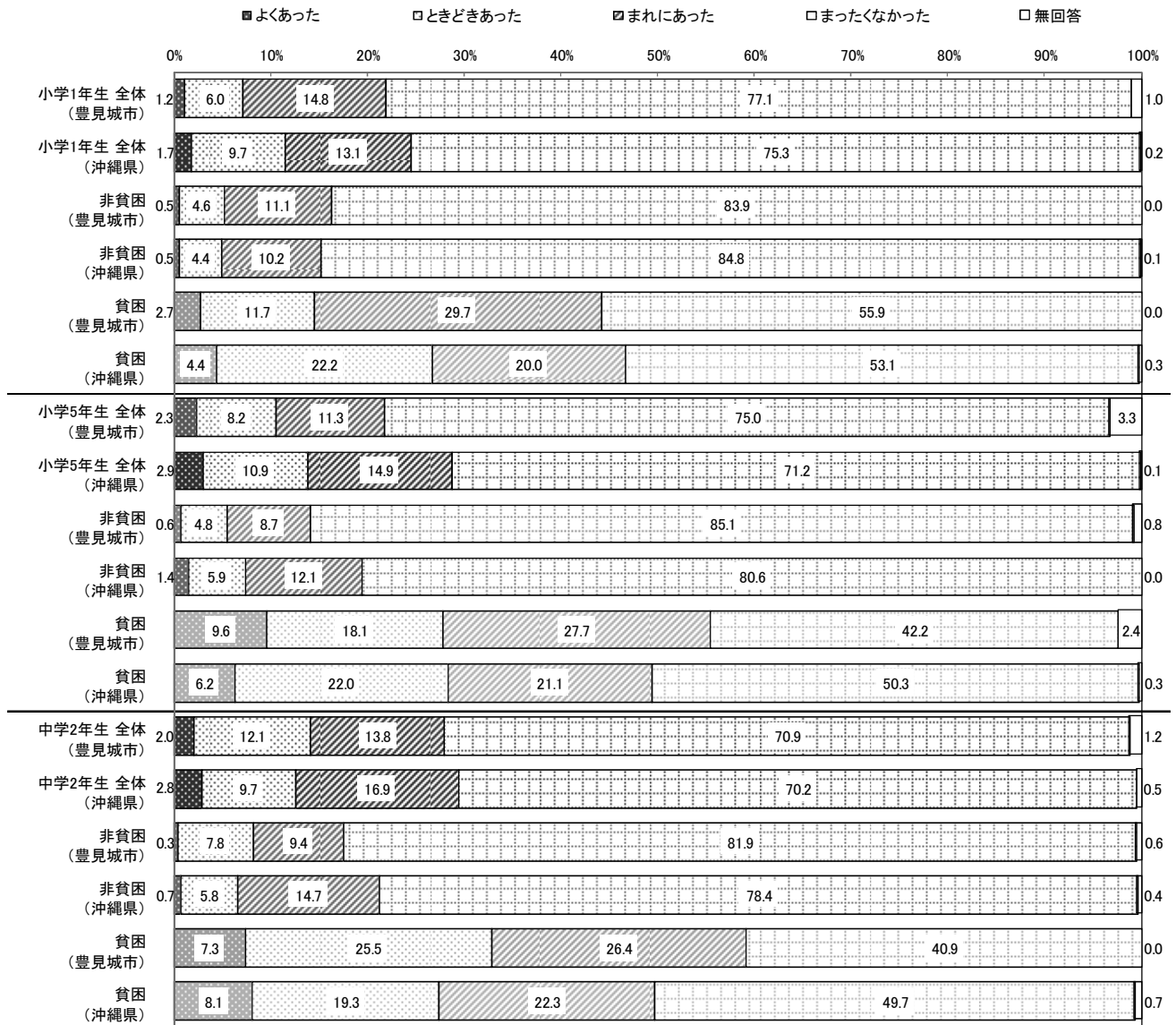
【学年による比較】

『あった』（「よくあった」＋「ときどきあった」＋「まれにあった」）とする割合は、＜小学1年生＞、および＜小学5年生＞では2割強ですが、＜中学2年生＞では3割弱と高くなっています。＜貧困＞において『あった』とする割合は学年が上がるにつれて高くなっており、＜非貧困＞と＜貧困＞の差も学年が上がるにつれて拡大しています。

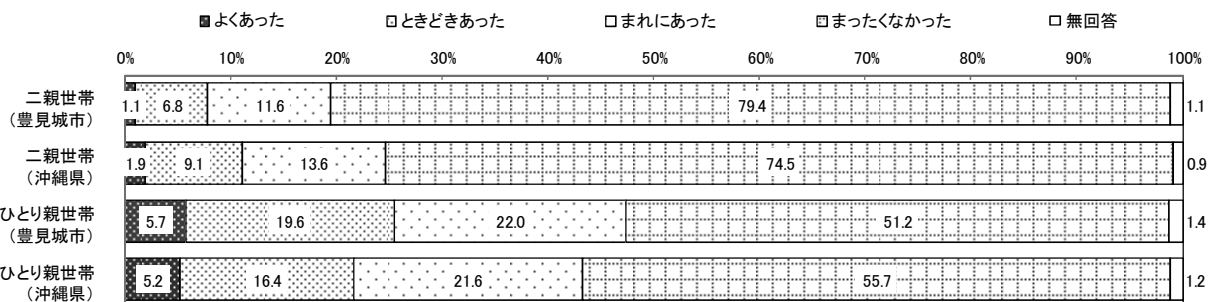
【世帯種類別による比較】

『あった』（「よくあった」＋「ときどきあった」＋「まれにあった」）とする割合は、＜二親世帯＞で19.5%、＜ひとり親世帯＞で47.3%とほぼ半数となっており、その差は27.8ポイントとなっています。また、沖縄県と比較すると、＜二親世帯＞では『あった』とする割合が5.1ポイント低くなっていますが、＜ひとり親世帯＞では4.1ポイント高くなっています。

食料を買えなかった経験／経済状況別



食料を買えなかった経験／世帯種類別



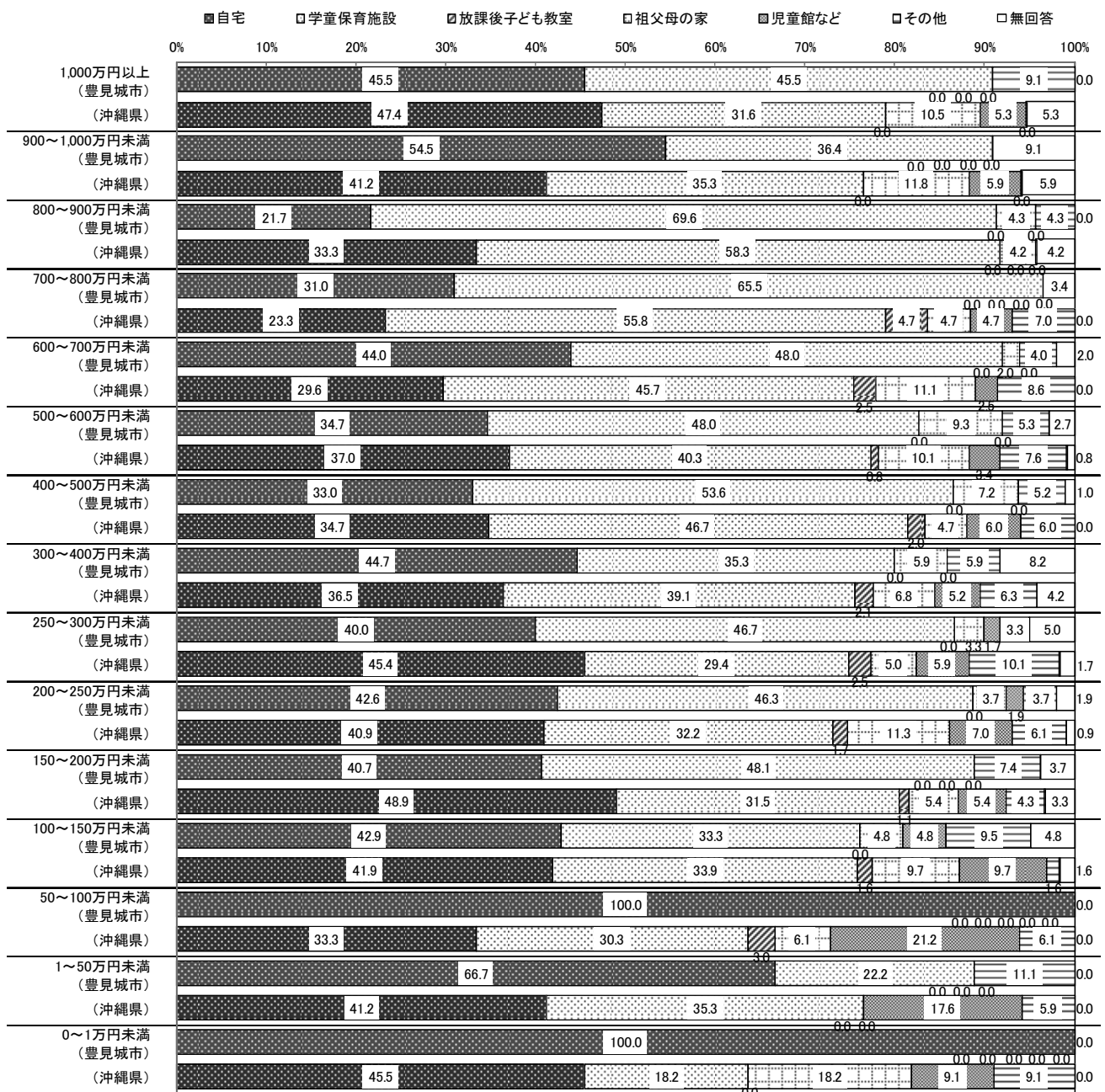
5. 子供の放課後の居場所

○所得階層別 放課後の居場所

小学1年生の放課後の居場所が、保護者の所得階層によって異なるかを分析した結果です。

年収150万円～300万円未満、および年収400～900万円未満の世帯では「学童保育施設」が最も高くなっていますが、年収150万円未満、年収300～400万円未満、および年収900～1,000万円未満の世帯では「自宅」が最も高くなっています。また、年収1,000万円以上では「自宅」と「学童保育施設」が同率で最も高くなっています。

沖縄県と比較すると、「学童保育施設」は年収150～300万円未満、800～900万円未満、および1,000万円以上の家庭では沖縄県より10.0ポイント以上高く、年収100万円未満の家庭では沖縄県より10.0ポイント以上低くなっています。また、「自宅」は年収100万円未満、600～700万円未満、および900～1,000万円未満の家庭では沖縄県より10.0ポイント以上高く、年収800～900万円未満の家庭では沖縄県より10.0ポイント以上低くなっています。



豊見城市 子供調査
調査結果報告書（概要版）

発行年月	平成30年3月
発行	豊見城市 福祉部 社会福祉課

沖縄県豊見城市翁長 854 番地 1
TEL：098-850-0141（直通）
